

大和基地と厚木基地 そして米軍再編

今年5月1日、日米両政府の外務・防衛閣僚は、在日米軍再編協議における最終的な報告として「再編実施のための日米のロードマップ」を発表しました。この中で、厚木基地からの空母艦載機の移駐が示されたことにより、航空機騒音問題は新たな局面を迎えたといえます。

今号では、関連する国内外の情勢を振り返りながら、在日米軍再編と厚木基地についてお知らせします。

昭和13年 旧海軍省が航空基地建設

昭和16年 帝都防衛海軍基地として使用開始

昭和20年8月 連合国軍マッカーサー元帥、厚木基地到着

昭和25年6月 朝鮮戦争勃発

昭和25年12月 「米海軍厚木航空基地」発足

昭和35年1月 新日米安全保障条約調印

昭和37年11月 大和基地対策協議会発足

昭和38年9月 「厚木海軍飛行場騒音規制」日米合同委員会で合意

昭和40年2月 米軍が北ベトナムを爆撃

昭和43年6月 小笠原諸島返還

昭和47年5月 沖繩返還

昭和48年10月 米空母ミッドウェイ、横須賀港を事実上母港化

昭和57年2月 NLP（夜間連続離着陸訓練）開始

昭和63年8月 厚木基地騒音対策協議会設立



厚木基地の旧管制塔
（昭和26年当時）



厚木基地に到着した
マッカーサー元帥



NLP
（夜間連続離着陸訓練）

戦後、厚木基地が米軍に接收されてから60年以上が経ちました。その間、厚木基地の航空機騒音は、その時々国際情勢や防衛力の整備状況、航空機技術の発達などにより大きく変化してきました。

特に、昭和48年に米空母ミッドウェーが横須賀港を事実上の母港としてからは、同空母の艦載機が厚木基地に飛来するようになり、以来、基地周辺住民はその騒音被害に悩まされ続けています。市などは、航空機騒音の解消を求め、日米両政府に繰り返し訴え続けてきました。

そうした中、日米両政府は今年5月1日、在日米軍再編協議の最終的な報告として「再編実施のためのロードマップ」を発表しました。同ロードマップによれば、2014（平成26）年までに空母艦載機が厚木基地から岩国基地へ移駐するとされています。

国際的な動き

国内の動き



大和市上空で行われていたデモフライト

平成元年 11月 ベルリンの壁崩壊

平成3年 1月 湾岸戦争勃発

平成3年 9月 米空母ミッドウェーから

インディペンデンスに交替

平成5年 4月 硫黄島代替訓練施設全面提供

平成9年 9月 新たな日米防衛協力のための指針（新ガイドライン）了承

平成10年 8月 米空母インディペンデンスからキティホークに交替

平成11年 5月 周辺事態安全確保法等成立

平成12年 9月 厚木基地との交流中断

平成13年 1月 NLP問題で4基地周辺の市長が意見交換

平成13年 9月 米国で同時多発テロ

10月 米英がアフガン攻撃開始

平成13年 10月 テロ対策特別措置法成立

平成14年 2月 「NLPの日米両政府了解事項」を通知

平成14年 5月 在日米海軍司令官がデモフライトの中止を表明

平成15年 3月 米英がイラク軍事行動開始

11月 ブッシュ米大統領が米国の軍事態勢見直しに関する声明を発表

平成16年 4月 市長訪米

平成16年 6月 国民保護法など有事関連七法成立

平成17年 10月 在日米軍再編に関する中間報告

平成18年 5月 在日米軍再編に関する最終報告



ハワイの太平洋艦隊司令部で討論する土屋市長



米空母キティホーク